
オリンピック開会式の文化プログラムにみるオリンピック教育の理念とその実際の展開

15500454

平成15年度～平成18年度科学研究費補助金
(基盤研究(C)) 研究成果報告書

平成19年 3月

研究代表者: 舩 本 直 文

首都大学東京 基礎教育センター・准教授

課題番号(15500454)

オリンピック開会式の文化プログラムにみるオリンピック教育の
理念とその実際の展開

平成15年度～平成18年度科学研究費補助金
(基盤研究(C)) 研究成果報告書

平成19年 3月

研究代表者: 舩 本 直 文

首都大学東京 基礎教育センター・准教授

目次

はしがき	1
研究成果報告(学術論文)	15
1. 2002 SLC Winter Olympic Games の開会式: WTC flag の入場問題	17
2. 2002 年ソルトレイク冬季五輪開会式の文化プログラム”Light the Fire Within”の解釈	23
3. アテネ・オリンピック大会調査ノート:開会式、文化プログラム、そして「オリンピック休戦」	29
4. 聖火リレーの理想と現実:2004 年アテネ大会国際聖火リレーの東京ステージを中心に	41
5. 人文・社会学系オリンピック研究の現在	47
6. The new Olympic peace culture? : The Olympic message relay for peace and the Environment	55
研究成果報告(口頭発表)	65
1. 2004 年アテネ大会のオリンピック教育の理念	67
2. Conflict between the Olympic ideal and national interest: Symbolic meaning of the cultural performance in the opening ceremony of the 2002 Salt Lake Winter Olympic Games	71
3. グリーンスパン監督が捉えた 2002 年ソルトレイク冬季五輪: 公式記録映画に記憶された愛国主義 VS オリンピズム	77
4. オリンピック教育の展開事例:シンボル、モットー、クーベルタン・クリードを利用して	81
5. 聖火リレーの理想と現実:2004 年アテネ・オリンピック競技大会の東京ステージを追って	90
6. Absence of the children: Philosophical interpretations of the opening ceremony of 2004 Athens Olympic Games	95
7. 2004 年アテネ大会開会式のミソロジーとポリティックス	105
8. Another day, another relay: The new Winter Olympic tradition of the message relay about the peace, youth and environment	109
9. Olympic Education in Japan	113
10.2006 年トリノ冬季オリンピック開会式の平和的次元および教育的次元	117
11. オリンピック開会式に見るオリンピック教育の理念	121
研究成果報告(出版物・その他)	125
1. メダルフィーバーの陰で「オリンピック休戦」アピールを振り返る	127
2. アテネ現地レポート:アクロポリスの麓の街プラカから	133
3. トリノ冬季オリンピック大会を体育の授業に	137
4. 2006トリノ冬季大会雑感:トリノ発オリンピック・ムーブメントの平和運動	143
5. 2006トリノ冬季オリンピックの平和運動	147

1. はしがき

1.1 研究目的

本研究の目的は、近代オリンピック開催国で実施されている「オリンピック教育」が、世界的に注目度の高い開会式の文化プログラムの中で如何に展開されており、またそれがどのようなスポーツ哲学や教育理念に基づいて実施されているのか、ということについて明らかにすることにある。

- ①「オリンピック教育」の目的と理念およびその展開について過去の概要を把握する。
- ②1990年代以降の過去の大会における開会式の文化プログラムをレビューし、そこにおける「オリンピック教育」の展開とその理念的背景を明らかにする。
- ③21世紀の今世紀における「オリンピック教育」の理念とその実際の展開を、2004年アテネ夏季大会および2006年トリノ冬季大会の夏冬両大会を事例に実地調査し、「オリンピック教育」の有効性、問題点、可能性について明らかにする。
- ④以上の過去のレビューおよび現在の開会式の文化プログラムにおける「オリンピック教育」の実情を明らかにすることによって、将来のオリンピック運動やスポーツ文化の理念やあり方、およびそこにおける「オリンピック教育」の役割と将来展望の指針を得る。

1.2 本研究の特色と意義、関連研究の状況、研究計画等

① 研究の特色・独創性・予想結果と意義

世界的に注目度が高く、テレビメディアを介してその表層的なイメージに接することが多いオリンピックの開会式であるが、そのメガイベントの開始となる様々なショーを含めた文化プログラムに関する学術的研究は余り行われていない。しかも、その文化プログラムには多くの青少年たちが動員され、テレビ受けがして見栄えのするプログラムが行われているのが実情である。彼らは歴史に残るオリンピックイメージの担い手として大きな役割を担っているが、その位置づけやオリンピック運動との関係については明らかにされていない。その一方で、開会各国では「オリンピック教育」の名の下に、オリンピック理念、オリンピック運動、異文化理解と交流、国際親善などのためのプログラムが展開されており、その必要性和有効性は教育学的にも平和論的にも理解されているところである。しかしながら、開会式というメガショーに動員される青少年たちを「オリンピック教育」の対象として位置づけた試行的研究さえ実施されてはいない。その意味からも、本研究の独自性や特色が窺える。さらに、可能ならば文化プログラムの参加者への経年的な追跡調査も望まれるが、取り敢えず数次の大会を対象に、開会式の文化プログラムと「オリンピック教育」との連携について明らかにしていくことは、将来のスポーツ文化、オリンピック文化を担う子どもたちの今後の教育のためにも有意義であると考え。このような海外共同研究者の協力を得ながら実施する学術的な調査研究によって、「オリンピック教育」の理念的な学習だけでなく、実践も含めた総合的な学習によって、子どもたちに生涯にわたって記憶されていくオリンピック価値観の醸成の一端について明らかにされると予想される。

② 国内外の関連研究と本研究の位置

オリンピックの開会式に関する文化論的、教育学的研究はごく一部の研究者たちを除き、余り展開されていない。それはスポーツ科学として、アスリートのパフォーマンス向上やトレーニング、経済性などの有用的知見が研究の主たる関心事として行われていることによる。しかしながら、漸くIOCのオリンピック研究センターや世界各地のオリンピック研究所との連携の下に、開会式に関するシンポジウムなどの研究会が開催され始めた(IOC & Moragasら)。日本では、科学研究費の補助金を受けて「開会式の芸術プログラムの解釈」(舛本)、「近代オリンピックの教育的意義」(真田)らの研究によって、漸くオリンピックの開会式やオリンピックの教育的意義について研究が始まった。しかしながら、開会式で展開されるメガショー自体への研究はほとんど行われておらず、さらに、開催国で展開される「オリンピック教育」とそこに動員される青少年を対象とした関連研究は全く実施されていないのが現状である。その意味で本研究は、今後の「オリンピック教育」の理念の再構築とその実際の展開に向けた再検討にあたって、有効な知見を導き出すことが予想される。

さらに、今後のオリンピック研究に関して日本を含めた国際的な研究ネットワークの構築に向けたスタートとなることが予想され、その意味でも本研究は意義深いと考える。

③ 従来の研究経過・研究成果または準備状況等

1. 科学研究費(1990)(一般(C))スポーツ映像におけるスポーツの意味と機能に関する研究。舛本直文、2,400千円。

スポーツの記号論・象徴論・解釈学的な手法を用いてスポーツ映像の分析・記述・解釈を行った。まず、テキスト、コンテクスト、メタ・テキストという3つの視点から分析する方法の有効性が明らかにされた。その方法に基づき、ゴルフ映画、サイレント・コメディ、アメリカン・ドリームを描くスポーツ映画を対象に身ぶりやスポーツの象徴的表現を解釈した。

2. 科学研究費(1994)(一般(C))スポーツ映像文化のイメージ形成・強化装置としての機能。舛本直文、2,100千円。

ここでは、上記の科学研究費の研究で明らかになった知見に基づき、鑑賞者へのスポーツ映像の影響を明らかにするために調査研究が行われた。スポーツ映像を見ることによって鑑賞者達のスポーツに対するイメージが変容することが確認された。これが特定のスポーツ映像によるものかどうか課題が残された。

3. 科学研究費(1998-1999)(基盤研究(C)(2))オリンピズムの映像表現に関する文化解釈学的研究。舛本直文、2,600千円。

各種のオリンピック関連の映像を対象にして、その中に映像として記録されたオリンピズムの象徴的表現を分析・記述・解釈し、明らかにしようと試みた。そのことによって、スポーツ映像の制作者たちが捉えたオリンピズムという根本的思想・理念を確認し、暗黙の文化再生産装置としてのスポーツ映画のもつメディア性も明らかにしようとした。この結果、記録映画のみならずテレビ報道の内容分析とオリンピック開会式の実際との比較研究や各国のテレビ放映内容と解説差の比較などの必要性が示唆された。

4. 科学研究費(2000-2002)(基盤研究(C)(2))オリンピック開会式の芸術プログラムにみる文化的意味に関する研究。舛本直文、2,300千円

ここでは、開会式における芸術プログラムを対象に解釈学的、文化論的検討を行った。特に海外テレビメディアにおける報道内容の分析、およびIOC公式記録映画の分析・解釈を行うことによって、文化的差や開催国のナショナリズムとIOCのトランスナショナリズムの軋轢の存在などを明らかにした。

5. 科学研究費(1999-2001)(基盤研究(B)(2))近代オリンピックの教育学的意义に関する研究。真田 久、7,300千円

ここでは、研究分担者として、「オリンピック教育」における映像資料の有効性とその実

際的活用に関する研究を分担した。その際に、世界各国で展開されている「オリンピック教育」の実態に関する知見を幾ばくかは収集できた。

上記のような文部省科学研究費の助成を受けてスポーツおよびオリンピック映像に関する基礎的な研究を進めてきた。それらの研究成果の一部は既に国際的な発表の場で報告してきた。(①The 1992 International Conference on Sport Sciences in Taipei, ②1994 The 2nd International Olympic Symposium, ③1994 The 2nd PSSS Annual Meeting, ④1995 Universiade FISU/SECU Conference, ⑤1996 The 3rd International Olympic Symposium, ⑥1998 The 4th International Olympic Symposium, 1999 The 39th Youth Session of International Olympic Academy, ⑦2000 International Association for the Philosophy of Sport 2000 Annual Conference, ⑧5th International Symposium for the Olympic Research, ⑨6th International Symposium for the Olympic Research)

このように、これまでのオリンピックを含むスポーツ映像の象徴的意味の解釈研究において、科学研究費補助金を受けながら、映像の中の近代オリンピック競技風景の分析・解釈を行ってきた。その研究成果の一端は1994年以来カナダのWestern Ontario大学のオリンピック研究所主催のオリンピックシンポジウムでの報告以来、1999年の国際オリンピック・アカデミーの国際青年セッション、あるいは2002年度のオリンピックシンポジウムの発表に至るまで、数回にわたって報告し、既に国際的な評価を受けてきた。また、長野冬季オリンピックの開会式に見るオリビズムやその文化性についてもその象徴性の分析解釈に着手し、その研究フレームと方向性についても1998年度の第20回日本体育・スポーツ哲学会および1999年度日本スポーツ社会学会などで報告してきた。

オリンピックの開会式の芸術プログラムに関しては、2000年シドニーのテレビ映像と実地調査、IOCの公式記録映画に比較検討を行い、2002年度体育・スポーツ哲学会で報告した。2002ソルトレイクの開会式の芸術プログラムについても現地の実地調査と日米加の3カ国の報道比較を行い、特に政治性などのナショナリズムの強固さとIOCの平和主義の対立構造、およびナショナリズムと愛国主義などへの危険性を明らかにし、2002年度の日本体育学会などで報告してきている。

研究分担者として参画した「オリンピック教育」関連の総合研究においては、開催国での現地のオリンピック教育の理念とその実際的な展開の調査の必要性が示唆されていた。特に、開会式に関連するオリンピック教育の実際に関する具体的な研究はほとんど行われていないという現実が明らかにされた。

これらの一連の研究から、オリンピック開会式の目的や文化的・芸術的内容についてさらに詳細な研究の必要性が示唆されるとともに、従来の大会の芸術プログラムの中で、現地の青少年達がどのような参画したのか、そのあり方とその理念、実際的な「オリンピック教育」との関連性がどうであったのかなどについて確認する必要性が示唆された。さらに、今後の2004年のアテネ夏季大会および2006年トリノ冬季大会の夏冬両大会を事例に、「オリンピック教育」と開会式の芸術プログラムや文化プログラムとの関係を明らかにすることによって、将来の「オリンピック教育」のあり方への展望が得られる予見が得られた。

これまでの海外調査研究および各種のオリンピックシンポジウムや学会に参加・発表することによって、諸外国のオリンピック研究者との研究ネットワークと情報交換のルートができあがりつつある。そのため、オリンピック研究ネットワークを通じ、さらにIOCのオリンピック研究センターとも連携することによって、世界的視野から「オリンピック教育」とその具体的展開に向けた知見が得られると予想される。

④研究計画・方法

平成15年度

(1)文献収集とオリンピック開会式のテレビ映像および記録映像資料収集(6月～9月)

①オリンピック映像論、スポーツ映画論、オリンピック教育、開会式の記録等の文献の検索と収集(消耗品費)。

②オリンピック映画および開会式の映像資料の収集・編集・整理(既存のデスクトップ型パソコンによる)。特に、VTR作品化されていない映像を中心に渉猟する。英語圏の作品はスイスのローザンヌのオリンピック博物館および海外共同研究者に依頼して収集する。国立近代美術館フィルムセンターなどの映像収集のためには、インターネット対応小型映像記録・編集装置によって効率的に編集しながら収集・整理することが必要である(申請の小型映像記録・編集装置、既存のビデオ編集機材による)。

(2) 研究成果の公表、研究打ち合わせおよび専門的知識の聴取(9月)

①これまでの研究成果の整理と今後の研究方向のフレームについて英語圏の国際学会にて報告し、その有効性と妥当性とを世界に問う。その際、外国のオリンピック研究者間で資料収集するネットワーク形成と研究情報を交換する機会として活用する。さらに、海外共同研究者との資料収集等の研究打ち合わせを行う(国内・国外旅費、専門的知識の提供の謝金。)

②ローザンヌのオリンピック博物館およびIOCオリンピック研究センターにて資料収集:学会の際に実際にIOCの施設に立ち寄り、開会式の芸術プログラムおよび「オリンピック教育」関連資料を現地にて収集する。その際、パソコン処理を可能にするため、インターネット対応の小型映像記録・編集装置によってオリンピック博物館の映像資料などに当たって取材調査する。収集したオリンピック映画をすべてパソコンに取り込み検索できる体制を整える(国内・国外旅費、既存のデスクトップ型パソコンおよび申請の小型映像記録・編集装置経費)。

(3) 資料の分析・整理(10月～平成16年3月)

①収集してきたオリンピックの開会式や教育資料の理念を抽出し、検索体制を整える(研究補助員を用い申請の謝金)。

②英国、米国、カナダの英語圏各国で放映されたシドニーおよびソルトレイクの開会式のテレビ放映を収集し、その放映内容と解説を実際の取材記録および日本の放映と比較分析し整理する。(専門的知識の提供謝金および補助員謝金)

平成16年度

(4) 各国の「オリンピック教育」と開会式の文化プログラムのテレビ映像資料および公式オリンピック映画の中のオリビズムの象徴表現、公式報告書などのデータベース化(4月～8月)

マルチメディア対応携帯コンピューターが有効な保存機能を果たす。各地のVTR編集機や家庭のVTR再生装置を利用してデータベース作業を進めるためにはブロードバンド対応でマルチメディア対応型のノートパソコンが有効となる。外国からもE-mail等を用いて研究室のデスクトップ型パソコンにデータを集積する方法が一括処理するためには有効である。(既存のデスクトップ型パソコン及び申請のマルチメディア対応携帯コンピューター、小型映像記録・編集装置)

(5) アテネオリンピック大会の調査準備と実地調査:アテネオリンピック開会式調査の分析・解釈(8月～)

①アテネ大会の開会式における「オリンピック教育」と文化プログラムの関係について組織委員会のメンバーでもあるKostas Georgiadis氏を中心に調査体制を整える。さらに、現地に赴いて実地調査をする(国内・外交旅費、専門的知識のため謝金)

②開会式の英語圏におけるテレビ映像を収集し、オリンピック教育関連のデータを抽出する(研究補助謝金)

(6) 研究成果の中間公表およびオリンピック文化研究資料収集およびまとめと整理(10月～平成17年3月)

アテネ・オリンピック関連の芸術プログラムを中心に国際スポーツ哲学会において研究成果の中間公表を行うとともに資料収集を行う(国内・国外旅費)。

平成17年度

(7)アテネオリンピック開会式の研究成果報告(4月～8月)

①アテネ・オリンピックの開会式における文化プログラムと「オリンピック教育」に関連した研究成果をまとめ、成果報告を行う。(国内・外国旅費)

②2006トリノ冬季大会の現地調査に向け研究打ち合わせを行う。これまで得られた知見をもとに組織委員会との折衝を行う。また、IOCオリンピック研究所との連携、TROCとの連携のために専門的知識の提供を受ける(国内・外国旅費、専門的知識の謝金)

(8)トリノ大会関連の開会式および「オリンピック教育」の資料整理(9月～12月)

①トリノ大会の開会式および「オリンピック教育」関連の資料を整理しデータベース化する(研究補助員の謝金)。

(9)トリノ大会の現地調査およびテレビ放映資料の収集(1月～3月)

①トリノ大会に出向き、開会式の芸術プログラムおよび文化プログラムと「オリンピック教育」の関連資料を収集する(国内・外国旅費、専門的知識の提供の謝金)。

②トリノ大会の英語圏のテレビ放映資料を入手し、分析・解釈する(研究補助謝金)

平成18年度

(10)データの整理・分析(6月～10月)

①各種テレビ放映資料および公式オリンピック映画の中の「オリンピック教育」関連の象徴表現のデータベース化を進める。各国のVTR編集機や家庭のVTR再生装置を利用して、データベース作業を進めるためには、(既存のデスクトップ型パソコン及び申請のインターネット対応ノート型パソコン、デジタル画像記録・処理装置)。

②データベース化されたオリンピック映像およびアテネ、トリノ両大会の開会式調査の整理・分析・解釈(9月～12月)

データ化されたオリンピック映像およびアテネ、トリノ両オリンピック開会式のテキストをジャンル別に特徴的な様相を抽出して分析解釈し、各国のオリンピズム観とオリンピック教育の理念を明らかにしていく。(資料整理のため謝金)

(11)研究成果の公表(10月)

国際オリンピックシンポジウムにおいてオリンピック開会式芸術プログラムと「オリンピック教育」について研究成果を報告し、世界的評価を受ける。

(12)報告論文の作成(10月～12月)および印刷(平成19年1月～3月)

1.3 報告書の構成

本報告書は、研究成果を公表するとともに、今後の研究の展望も示唆し、また本研究で得られた資料をも公表して、この分野の研究や教育の関心のあるものに情報提供する事を主眼として構成されている。そのため、以下の構成を取った。

先ず(1)2003-2006の間に学術誌等で公表した成果をそのまま論文別刷りの形で載せることにした。この際、B5版からA4版になるため、拡大印刷したものがあることをお断りしておく。続いて、(2)口頭発表をしたがまだ活字化されていないものに関して発表資料

England, 2003, 9, 18.

4. 舛本直文. グリーンスパン監督が捉えた2002年ソルトレイク冬季五輪: 公式記録映画に記憶された愛国主義 VS オリンピズム. 日本体育学会第54回大会, 熊本大学, 2003, 9, 27.
5. 舛本直文. オリンピック教育の展開事例: シンボル、モットー、クーベルタン・クリードを利用して. 日本スポーツ教育学会第23回大会, 京都女子大学, 2003, 10, 26.
6. 舛本直文(司会)、真田久他「世界のオリンピック教育」
JOA 第2回オリンピック教育委員会セミナー. OMYC, 2003, 5. 31.
7. 舛本直文. 体育理論の新展開: オリンピック関連テーマの指導.
ネットワーク多摩10年経験者研修会、東京都立大学, 2003, 7. 24.
8. 舛本直文. 聖火リレーの理想と現実: 2004年アテネ・オリンピック競技大会の東京ステージを追って.
日本体育学会体育原理専門分科会夏期合宿研究会、箱根強羅、2004. 7. 26.
9. 舛本直文. ファイブ・リングの歪みを暴けるのか?: 人文社会系オリンピック研究の現在.
日本体育学会第55回大会体育原理専門分科会キーノート・レクチャー、長野、2004. 9. 25.
10. Naofumi Masumoto. Status Quo of Olympic Education in Japan: A case study in a university PE class.
Seventh International Symposium for Olympic Research, International Centre for the Olympic Studies,
Ontario, CANADA. 2004. 10. 24.
11. Naofumi Masumoto. Absence of the children: Philosophical interpretations of the opening ceremony of 2004 Athens Olympic Games
33rd Annual Conference of the International Association for the Philosophy of Sport, Olomouc, Czech Republic. 2005. 9. 15.
12. 舛本直文. 2004年アテネ大会開会式のミソロジーとポリティックス.
日本体育学会第56回大会、つくば、2005. 11. 23.
13. Naofumi Masumoto. Another day, another relay: The new Winter Olympic tradition of the message relay about the peace, youth and environment.
Winter Olympic Games Symposium in 2006 Torino, Torino, Italia. 2006. 2. 9.
14. Naofumi Masumoto. Olympic Education in Japan.

International Olympic Academy 8th Joint International Session for Presidents or Directors of National Olympic Academies and Officials of National Olympic Committees. Olympia, Greece, 2006.5.27.

15. Naofumi Masumoto. The grass-roots Olympic peace activities: The Winter Olympic message relay for the peace and environment.

34th Annual Conference of the International Association for the Philosophy of Sport, Niagara Falls, Ontario, Canada. 2006.9.15

16. Naofumi Masumoto. The grass-roots Olympic peace activities: The Winter Olympic message relay for the peace and environment. (Re-presentation)

スポーツ哲学研究セミナー2006, 東京, 2006.10.9.

17. Naofumi Masumoto. The new Olympic peace culture? : The Olympic message relay for peace and the Environment.

3rd Beijing Forum in 2006. Beijing, China. 2006. 10.29.

18. 舛本 直文. 2006年トリノ冬季オリンピック開会式の平和的次元および教育的次元.

日本体育学会第57回大会、弘前、2006.8.20.

19. 舛本 直文. オリンピック開会式に見るオリンピック教育の理念.

日本スポーツ教育学会第26回大会、大津、2006.11.18.

(講演等)

1. 舛本 直文. 聖火が東京にやってくる: 聖火をつないで、世界をひとつに; Pass the Flame, Unite the World.

2004年度JOA特別セミナー、代々木、2004.5.22.

2. 舛本 直文. オリンピック学習会: オリンピックってなあに.

横浜市立高舟台小学校特別授業、横浜、2004.6.3.

3. 舛本 直文. オリンピック・デーと映像.

NHK教育、「視点・論点」、渋谷NHK、2004.6.23.

4. 舛本 直文. アテネ・オリンピック自由に総括: 文化面を中心に(プラカ便り; アクロポリスの神々に見守られて).

日本スポーツ学会、10月例会、荻窪、2004.10.27.

5. 舛本 直文. アテネ・オリンピック: 報道されていない場所や裏話—映像を見ながら.

クラブ・ツーリズム「オリンピックを楽しむ会」、渋谷、2004.10.30.

(3) 出版物

1. Naofumi Masumoto. Nagano 1998.

In John Findling and Kimberly Pelle (Eds.) *Encyclopedia of the Modern Olympic Movement*. pp. 415-419. 2004.

2. 舛本 直文. 21世紀オリンピック豆事典(分担執筆)

日本オリンピック・アカデミー編. 楽; 分担: 総頁 199 頁中、22-23, 49-50, 64-65, 68-69, 69-70, 192-193 頁、2004.1.26.

3. 舛本 直文. 第4章-3「スポーツの見方は、どこで誰がどのように教えるのか—メディア・リテラシーの可能性と限界」、第4章-4「スポーツ映画にみる倫理問題」、第5章-2「オリンピックという幻想—政治化された装置はどこにゆく」、分担: 総頁 258 頁中、167-179、179-192、205-216 頁、2004.6.10.

近藤良享編著. *スポーツ倫理の探求*(分担執筆). 大修館書店.

4. 舛本 直文. 教養としての体育原理(分担執筆)「スポーツとオリンピズム」

友添秀則・岡出美則(編)大修館書店; 分担: 総頁 166 頁中、130-133. 2005.

(4) その他

1. 舛本 直文. いまこそ、アテネ五輪を体育の授業に活かそう.

体育科教育 2004 年 1 月号、pp.30-33.

2. 舛本 直文. アテネ・オリンピックを体育の授業に: 高等学校におけるオリンピック教育の展開に向けて.

保健体育教室、263、pp.4-7, 2004. 5.15

3. 舛本 直文. アテネ現地レポート: アクロポリスの麓の街プラカから.

現代スポーツ評論 11 号、pp.150-156. 2004.11.25.

4. 舛本 直文. 市川崑の映像から呼び覚まされる記憶.

JOA Review 2:9-14. 2005.4.15.

5. 舛本 直文. メダルフィーバーの陰で「オリンピック休戦」アピールを振り返る.

JOA Review 2:32-37. 2005.4.15.

6. 舛本 直文. トリノ冬季オリンピック大会を体育の授業に.

保健体育教室、269、pp.16-20, 2005.11.25

7. 舩本 直文. 2006トリノ冬季大会雑感:トリノ発オリンピック・ムーブメントの平和運動.
JOA Times 29:15-16, 2006.7.31.
8. 舩本 直文. スポーツ・タイムマシン□1964.10:第18回東京オリンピック大会とテレビ映像.
保健科教育 54-10:60-61, 2006.10.1.
9. 舩本 直文. オリンピック学講座:2016東京招致のための基礎知識(全18回連載).
都政新報, 2006.4.7-8.11.
10. 舩本 直文. 2016年オリンピック招致国内レースを振り返って.
都政新報, 2006.9.8.

1.7 研究成果の概要

1.7.1 平成15年度

(1) 文献収集とオリンピック開会式のテレビ映像および記録映像資料収集

オリンピック映像論、スポーツ映画論、オリンピック教育、開会式の記録等の文献の収集を行った。オリンピック映画および開会式の映像資料の収集・編集・整理を、特にビデオ作品化されていない映像を中心に渉猟した。英語圏の作品はスイスのローザンヌのオリンピック博物館および海外共同研究者に依頼して収集した。

(2) 研究成果の公表、研究打ち合わせおよび専門的知識の聴取

これまでの研究成果の整理と今後の研究方向のフレームについて英語圏の国際学会にて報告し、その有効性と妥当性を世界に問うた。その際、外国のオリンピック研究者間で資料収集するネットワーク形成と研究情報を交換する機会として活用した。さらに、海外共同研究者との資料収集等の研究打ち合わせを行った。

ローザンヌのオリンピック博物館およびIOCオリンピック研究センターに依頼して、開会式の芸術プログラムおよび「オリンピック教育」に関する映像資料と関連資料を収集した。その際、専門的知識の提供を受けた。

(3) 資料の分析・整理

収集してきたオリンピックの開会式や教育資料の理念を抽出し、検索体制を整えつつある。英国、米国、カナダの英語圏各国で放映されたシドニーおよびソルトレイクの開会式のテレビ放映を収集し、その放映内容と解説を実際の取材記録および日本の放映と比較分析し整理しているところである。

1.7.2 平成16年度

(1) 資料収集と整理

各国における「オリンピック教育」の現状に関する情報と開会式文化プログラムのテレビ映像資料の収集整理、および公式オリンピック映画のオリンピズムの象徴表現、公式報告書などの資料収集と整理を行った。携帯コンピューターと研究室のVTR編集機・録画機とDVD録画機が有効であった。

(2) アテネ・オリンピック大会の現地調査

2004年8月に開催されたアテネ大会の開会式における「オリンピック教育」と文化プログラムの関係について現地調査を行った。さらに、柔道、水泳、体操競技など、いくつかの競技場における文化プログラム展開の調査、および現地の市民広場における文化プログラムについても、現地に赴いて現地調査を行った。現地取材のビデオ映像をDVDに編集して整理していくために、DVD型ビデオカメラが有効であった。さらに、2004年アテネ開会式の英語圏における新聞報道や研究資料を収集し、オリンピック教育関連のデータを抽出し、資料整理すると共に、解説も含めて分析解釈を進めているところである。

(3) アテネ大会の聖火リレー、オリンピック休戦、文化プログラムなどに関する研究成果の中間公表およびオリンピック文化研究資料収集およびまとめと整理

アテネ・オリンピック関連の、聖火リレー、オリンピック休戦活動、文化プログラムを中心に、国内外の関連学会において研究成果の中間公表を行うとともに文化プログラム関連の研究資料の収集を行い、現在までに得られた資料の分析解釈を進めているところである。

1.7.3 平成17年度

(1) 資料収集と整理

各国における「オリンピック教育」の現状に関する情報と開会式文化プログラムのテレビ映像資料の収集整理、および公式オリンピック映画のオリンピズムの象徴表現、公式報告書などの資料収集と整理を継続して行った。携帯コンピューターによる情報検索が有効であった。

(2) 2006年トリノ冬季オリンピック大会の現地調査

2006年2月に開催されたトリノ冬季大会の開会式における「オリンピック教育」と文化プログラムの関係について現地調査を行った。さらに、フィギュアスケート、アイスホッケー、スピードスケートの競技会場における文化プログラム展開の調査、および現地の市民広場における文化プログラムについて現地調査を行った。現地取材ではビデオ映像とデジタルカメラ映像を中心に撮影し整理中である。さらに、2006年トリノ大会開会式の英語圏における新聞報道や研究資料を収集し、オリンピック教育関連のデータを抽出し、資料整理すると共に分析解釈を進めている。

(3) 2004年アテネ大会の聖火リレー、オリンピック休戦、文化プログラムなどに関する研究成果の中間公表およびオリンピック文化研究資料収集およびまとめと整理

アテネ・オリンピック大会の開会式に見る子供の象徴的不在、聖火リレーとオリンピック休戦、アテネ市内の文化プログラムを中心に、国内外の関連学会において研究成果の中間公表を行うとともに文化プログラム関連の研究資料の収集を継続して行い、現在までに得られた資料の分析解釈を進めている。

1.7.4 平成 18 年度

(1) 資料の整理と分析

2004 年アテネ大会開会式の文化プログラムとそのテレビ映像資料の整理・分析、2006 年トリノ冬季大会開会式の文化プログラムとそのテレビ映像資料の整理・分析、アテネ大会時の聖火リレーの東京レグの資料整理と分析、草の根の平和・環境メッセージリレーの整理・分析を行った。あわせて、2008 年北京大会に向けた中国のオリンピック教育、2010 年バンクーバー冬期大会に向けたカナダのオリンピック教育の情報整理を行った。

(2) 研究成果の各種学会および研究報告書での公表

2006 年トリノ冬季オリンピック大会の実地調査をもとに、開会式における平和メッセージと子どもに焦点を当てた研究報告 (JOA セミナー)。草の根のオリンピックの平和と環境メッセージリレーに関して、その教育的意義・オリンピック・ムーブメントとしての平和運動の意義について国際学会での報告 (国際スポーツ哲学学会、スポーツ哲学セミナー、北京フォーラム)、トリノ冬季大会開会式の文化プログラムとそこにおける子どもたちの役割に関する教育的考察について研究成果報告 (日本体育学会、日本スポーツ教育学会)。また、研究成果を研究成果報告書に纏めたほか、他の研究報告書にも関連したまとめを掲載した。

(3) 2004 年アテネ大会の聖火リレー、オリンピック休戦、文化プログラムなどに関する研究成果の公表およびオリンピック文化研究のまとめ

2004 年アテネ大会の開会式に見る子どもの象徴的不在、聖火リレーとオリンピック休戦、アテネ市内の文化プログラム、2006 年トリノ冬季大会開会式の文化プログラム、平和と環境のメッセージリレーの整理を行った。最近の開会式での子どもの不在および平和メッセージ性への強固なまでの志向が確認された。これは 2002 年ソルトレイク冬季大会前の 2001 年 9 月 11 日のテロリズム以来の変化であることが確認できた。またこのような変化が、子供たちへのオリンピック教育の好機と未来への平和レガシーを失いつつあることの危険性も指摘しておいた。

1.8 今後の展望

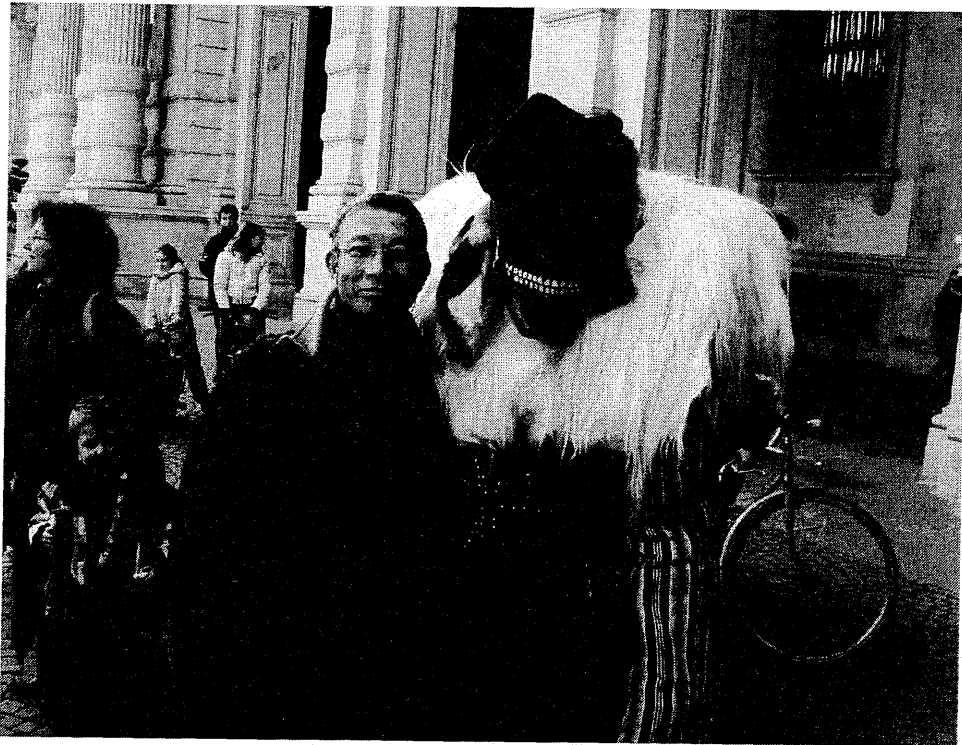
今後の課題としては、2006 年トリノ冬季オリンピック競技大会で示されたオリンピック開会式での平和的メッセージの教育的意味や意義について掘り下げる必要性が明らかにされた。中でも、アスリート達への視点が一番重要である。選手達の平和運動や文化プログラム参加を含めた異文化交流および国際親善の実態を調べることによって、選手村や競技会場で自然に発生する平和や友好のためのオリンピック教育的次元が明らかにされる可能性がある。

また一方で、世界中から集まる観客や応援団の人々のオリンピック教育への視点が重要であろう。

オリンピック期間中、開催都市の中には、開催都市の文化発信基地だけでなく、様々な国々が自国の文化発信と異文化交流基地としてナショナルハウスというものを構える。そこをベースとした異文化交流や国際親善は非常に有効な暗黙の教育機関としてのオリンピック教育の機会である。国際平和に貢献するオリンピック・ムーブメントの重要な活動機会がそこに残されている。

また、競技一辺倒のマス・メディア界に対するオリンピック教育も必要である。さもないと、オリンピック期間中に展開されている様々な平和運動や異文化理解や国際親善の機会が、多くの自国で観戦するオリンピック・ファンの目に届かないからである。

このような、暗黙の内に形成されているオリンピック教育の機会や平和運動発信の機会に焦点を当てて、オリンピック教育やオリンピックの平和運動の次元を調査研究する重要性が示唆されたと言えよう。



2006年トリノ冬季オリンピック競技大会で街角取材する著者

**研究成果報告
(學術論文)**

**研究成果報告
(口頭発表)**

研究成果報告
(出版物・その他)

課題番号:15500454

オリンピック開会式の文化プログラムにみるオリンピック教育の理念とその実際の展開

平成15年度～平成18年度科学研究費補助金

(基盤研究(C)) 研究成果報告書

2007年3月

発行: 舂本 直文

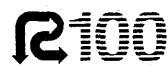
首都大学東京基礎教育センター・准教授

問合わせ先: 首都大学東京基礎教育センター

東京都八王子市南大沢1-1 〒192-0397

電話: 042-677-2974

E-mail: masumoto-naofumi@c.metro-u.ac.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています